



青葉区民会議ニュース

2019年9月

51号

事務局 〒225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町31-4 青葉区役所区政推進課広報相談係内
Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 Email:mail@aobakuminkaigi.com
URL:http://www.aobakuminkaigi.com/ または「青葉区民会議」で検索



まちづくりとSDGsはどうつながるの? ~住み続けたいまち青葉区を私たちの手で~

今回はSDGsとまちづくりについて考えてみます。SDGsはエス・ディ・ジーズと読みます。横浜市中期4か年計画の中にも持続可能な都市一横浜を実現するためのさまざまな施策がSDGsの17のテーマアイコンと共に書かれています。

SDGs (持続可能な開発目標)とはいったい何なのでしょう。私たちの生活とどのように関係するのか考えてみましょう。SDGsでは17のテーマごとに目標を設定し計画を進めます。

考え方の基本は「誰一人取り残さない」「持続可能な」「多様性と包摂性のある」社会を実現することです。まちづくりの基本と同じです。●は区民会議が掲げる活動目標です。



<SDGs11:住み続けられるまちづくりを>

●「誰一人取り残さない、防災・減災の仕組みづくり」

災害が起きた時、避難で逃げ遅れのない仕組みづくりやどのような人でも受け入れができる避難所づくりを同じ地域の住人や組織が助け合っ一緒に考えることを目標にする。そのためにはさまざまな人(国籍も障害も問わない)を受け入れ、共に話し合う場を作る。地域を地域が守る新しい防災計画(みんなで作る地区防災計画)について広げていくことを青葉区民会議では今期取り上げます。

*令和2年1月に防災・減災公開講座の開催を予定しています。(2ページ参照)

●「誰もが、安全に移動できるまちへ」

遠く、早く、大量にという移動から「小さい交通」(生活範囲の近くを、ゆっくりと、少人数で移動する交通手段)を考えます。移動を地域で支えあって継続的に運行できる工夫をみなさんと話し合う。青葉区民会議ではどのような仕組みがその地域にふさわしいのか情報共有できる場作りを話し合っています。

*横浜都市交通計画では「市民生活の質向上につながる交通政策」の初めに【誰もが移動しやすい地域交通の実現】をあげています。



<SDGs3:すべての人に健康と福祉を>

●「健康寿命を延ばせるまちをめざして」

多くの人々が健康を意識してまちを歩き、新しい発見があるまちに。

●「自分らしく暮らす、地域包括システムの構築を」みんなが安心して暮らせるまちに、支え合える絆づくりを。私たちにできる、私たちにしかできない、手作りのまちづくりについて考えます。

<SDGs4:質の高い教育をみんなに>

●「子どもたちに明るい未来を」地域学校協働活動など、地域の子育てを地域で応援するまちを目指して、地域の学校を地域に住む人たちが地域を挙げて応援するまちに。まちのみんながそれぞれの立場から「子育て」を応援するまちに。私たちに出来ることは何かを考えます。



<SDGs14:海の豊かさを守ろう>

●「青葉区も海に繋がっています-プラごみを減らそう」

海洋汚染とプラごみについて生活の中でどのように取り組むのか検討を予定しています。



入手先: 青葉区役所、地区センター、地域ケアプラザ、区民活動支援センター、図書館、区民利用施設など

回覧																			
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

承認
区連会9号

発行:青葉区民会議

区民会議はテーマや分野に分かれて活動しています

2019年度横浜市予算への要望提案への回答が届きました。

青葉区民会議は次年度横浜市予算への要望提案を毎年提出しています。昨年3部会から提出した24項目の要望・提案への回答は《青葉区民会議ホームページ》で見ることができます。

◆健康・福祉・教育部会1項目 ①横浜市立の全中学校に学校給食の導入を要望します。

◆安全・安心・まちづくり部会 18項目：防災関連15項目 図書関連2項目 施設整備1項目

主なもの：町の防災組織の活動へ「達成度自己評価制度」導入/区内全防災拠点での一斉防災訓練の実施/避難勧告などの情報提供に同報系システムの実施/各家庭に簡易トイレの準備PR /区内施設のWiFi環境整備の拡充など

◆自然・環境部会5項目

①「(仮称)恩田の市民の森」の整備と開園 ②青葉区版「水と緑のウォーキングマップ」の作成 ③ウォーキングイベントの時にミニ解説をするガイドをつける④市が尾駅から寺家ふるさと村までの鶴見川沿いの散策路をウォーキングコースとして位置づけ整備⑤環境創造局のHPにある寺家ふるさと村に行く散策コースへの交通手段に市が尾駅からの徒歩コースの追記

→⑤については、局HPで掲載が実現しました。ぜひ市が尾駅から寺家ふるさと村へ徒歩で散策してください。



* 2020年度横浜市予算への要望提案は提出しました。

■13期が始動しています 今期の活動は2つの部会で…

●住み続けたいまちづくり部会

13期ではこれまでの「自然・環境部会」と「安全・安心・まちづくり部会」での課題や活動を統合し、新たな部会として、8つのグループを作り活動を開始しました。

1. 高齢化に対応した地域交通
2. 青葉区ビューポイント
3. 青葉区のみどりを考える
4. 地区防災計画実現へ
5. 計画道路整備について
6. 地域課題のアーカイブ
7. 健康長寿社会
8. プラゴミZEROへ

●健康・福祉・教育部会

「地域を挙げて学校を応援してゆこう」「坂の多いまち、丘のヨコハマ青葉区、は強みなのか？弱みなのか？区制25周年を迎え、改めて考えてみようと思います。

○防災・減災パネルディスカッション 令和2年1月18日(土) 青葉区役所

防災に関わる団体や組織のパネル展示 同1月14日(火)~17日(金)

地域防災拠点を中心に「まちと住民」を守るさまざまな団体や組織があります。それぞれの活動と、連携の様子が分かるパネル展示を区役所1階ロビーで行います。また、災害時の支援団体や講師を交えて地域防災についてパネルディスカッションを行います。令和2年1月17日は阪神淡路大震災から25年目になります。多くの人命が失われましたが、また多くの人が地域住民とボランティアによって救われました。今一度、まちの防災を見直し、地域での連携の大切さを知る機会としましょう。

防災コラム(寄稿文) ① 究極のフレーズ「ここにはダメ！！」 桐蔭横浜大学客員教授 佐藤 栄一

東京都江戸川区のハザードマップに「ここにはダメです」と記入がされ、首都圏全体で大きな話題になっています。域内住民は、賛否両者がかんかんがくがくの議論を巻き起こしていますが、多くの区民は賛同の声を上げているようです。大河川の氾濫、高潮による氾濫では区のほとんどが水没し、深い所では10m(2階の屋根)にも及ぶと想定されています。認めたくない人たちは、過去に巨大氾濫はなかった、これからも起きない。面積が広いので急激な水位上昇はない。高層建物に住んでいるか、そこに避難する。いざの時はヘリコプターがある。都の消防力や警察力は強大である。果たして危ないですよ。これが正常性バイアスというものです。一方で、行政に腹を立て怒っている人たちがいる。「行政はやるべきことをやらずに区民を捨てた。これは責任回避だ。善後策を示せ」と。

私は、よくここに至る決心をしたものだ、高く評価したい。大河川を集めた地域で天井川の輪中状態になり、住民約70万人が被災する。この時、必要なことは自助・自衛意識を持って行動すること。それを家族全員で共有することが必要だと思う。災害は毎度違う顔をしてやってきます。小規模な『全員避難』だとしても混乱は避けられないでしょう。

私なら一言付け加え、「死にたくなければ、ここにはダメ！！」と表現します。
防災コラム(シリーズ)はHPでご覧になれます。

佐藤栄一さん防災コラム

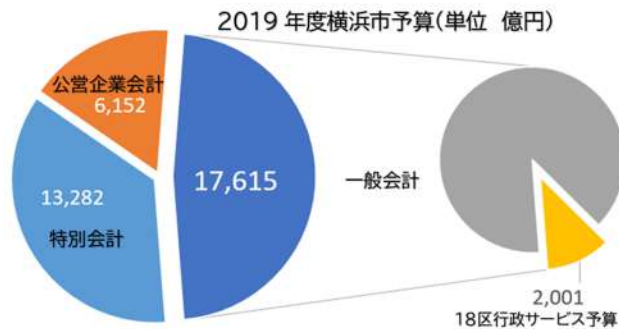
検索



区民会議の勉強会に参加しませんか？

【6月勉強会】6/26/2019 青葉区予算 総務課予算調整係長 佐藤 優さん

横浜市の全体予算と、青葉区ではどのような予算が組まれているのか学びました。市の予算規模は約3兆7000億円。使途と収入源の違いで、一般会計(1兆7,615億)、特別会計(1兆3,282億)、公営企業会計(6,152億)の3つに分かれます。特別会計は、国民健康保険や介護保険、港湾整備などの16事業の会計です。公営企業会計は、民間企業と同じく事業収入で経営している事業で例えば地下鉄やバスなどの事業会計です。一般会計の中に18区の行政サービスに必要な2,001億が予算化され、区に配分されます。「個性ある区づくり推進費」などを含め青葉区には今年度112億円が配分。これが分野別にどのような事業として展開するのか、広報4月号で紹介されました。市と区の予算の関係は複雑ですが、あなたはどの事業に関心がありますか。



【7月勉強会】7/10/2019 青葉区区政運営方針 区政推進課企画調整係長 中川 譲さん

6月の勉強会に続き区運営方針の下、どのような事業にどれぐらいの予算が使われているのか、お聞きしました。青葉区の基本目標は昨年と同じ「住みつづきたい・住みたいまち」青葉の実現。SDGsの取り組みのまさにS=sustainable=「持続可能な」を青葉区では早くから目標としていたのです。区予算112億円のうち自主企画事業費(個性ある区づくり推進費)として1億1000万円が5つの施策にそって振り分けられています。市が尾駅周辺のサイン整備や道路愛称事業、地域における起業等支援事業、災害時要援護者地域支えあい事業などが目新しいものです。委員からは「継続的な事業も多く、事業の区民満足度や実績評価、効果評価などが見える化されるとさらに区づくり、まちづくりへ区民として協力、参画意欲が湧くのでは・・・」という意見がでました。

青葉区役所各課訪問シリーズ④ 青葉土木事務所 下水道・公園係長 堀博明さんと道路係長 大村倫広さん

土木事務所管理職は、環境創造局・道路局を兼務されています。

今回の訪問先は、青葉区役所の向かいに建つ緑の建物。青葉土木事務所です。名が体を表すとおり土木事務所は「土と木＝道路と街路樹や公園および下水道」の担当部署です。今回のインタビューでは「街路樹と公園」についてお聞きしました。

●土木事務所は区役所なの？

多様な区民ニーズに対応するため、道路局が所管していた土木事務所を区に移管し、公園緑地事務所(環境創造局)が所管していた身近な公園の管理業務も併せて行う今の形に2005年度に変わりました。土木事務所の仕事は、管理係、道路係(道路の維持管理・修繕、街路樹の維持管理)、下水道・公園係(下水道・河川・公園の維持管理・修繕、公園愛護会)の3つに分かれています。

●どのような作業をされているのですか？

青葉区はまちがきれいです。住民のまちへの関心度が高く、そのことは未然の事故を防ぐことにつながり、結果、安全なまちが形成されます。40年前に一斉に開発が行われ、整備された道路や街路樹、公園など数の上では他区を寄せ付けません。(なるほどあおば参照) その結果、街路樹は生い茂り、あるいは樹齢が高くなり多くの手入れが今一挙に必要となってきました。公園の樹木も同じです。整備は、地区に分けて数年かけて行います。中には強剪定ではないかと思われる街路樹もありますが、数年先を考えて「仕立て直し剪定」を行っています。まちの「みどり」を「量から質へ」バランスのとれた街の景観へ整備を進めています。植え替え時期での樹種選定は専門家や地元との話し合いも含め慎重に進めています。青葉区には200を超える公園があり、多くの公園愛護会がボランティア活動をされています。また道路沿いの美化活動をするボランティアを支援するハマロード・サポーター(道の里親制度)というものもあります。奈良町に今度新しい公園ができます。地域の方たちが楽しく安全に利用できるよう、今日も作業車を走らせています。ぜひ、声を掛けてください。



青葉土木のマスコットキャラクター ドムくん

区民会議では毎月勉強会を開催します。内容やスケジュールについては青葉区民会議ホームページでお知らせします。参加希望の方は区役所広報相談係へご連絡ください。

青葉区民会議に参加を希望される方は、氏名・年齢・住所・電話番号・メールアドレスを書いて青葉区役所 1階広報相談係へ
Tel:045-978-2221 Fax:045-978-2411 メール:ao-koho@city.yokohama.jp

区民会議は青葉区の‘今’と‘これから’の課題を共有します

区民会議委員は何足かのわらじをはいています・・・愛称ヘルスマイト(正式名は青葉区食生活等改善推進員会)でブルーのエプロンをつけて活動を始めた松尾良信さんに聞いてみました。(ヘルスマイトはピンクのエプロン! だったのですが男性はブルーのエプロンで!)



青葉区ヘルスマイト

ヘルスマイトって何ですか？

《私たちの健康は私たちの手で》をスローガンに活動する全国組織の一つとして、食を通じて健康づくり全般のお手伝いをしています。例えば、区内の学校で授業の一環として「災害時の食事作り」や「地域防災拠点」での「災害食」の出前講座等も行っています。7月19日には区役所1階ロビーで、食育展を開催し「朝食を摂ろう」「野菜たっぷり」「塩分を控えめに」のキャンペーンを行いました。

ヘルスマイトのこれからの活動は？

「栄養の確保」という時代から、「食の安全・口腔ケア・適度な運動で健康寿命」など、活動内容の幅が広がっています。常に勉強し新しいことにチャレンジです。

ヘルスマイトはいつでも参加できますか？

「食生活等改善推進員の養成講座」の受講が必要です。自分、家族や、周りの人の健康を増進するやりがいのある活動ですので、是非参加してほしいです。

どうしてヘルスマイト活動をはじめたのですか？

ヘルスマイト活動にも健康長寿の推進や、災害時の健康維持など、区民会議で取り上げる課題と関係するものが多く、協力連携しながら区民会議活動も区民の皆さんへ伝えることが出来るのではと思いました。

*一般財団法人日本食生活協会のもと全国36道府県と5市に食生活改選推進員会が設置され、全国で14万人のヘルスマイトが活動しています。横浜市では約1000人。青葉区では現在70が活躍しています。

<流域で自然と災害を考えるシリーズ5> 「警戒レベルの5段階表示が始まっています！」

最近、線状降水帯という言葉をよく耳にします。大雨が続くとテレビやラジオでは雨量についての情報が流れます。では降った雨が流れる川の情報は気になりませんか？ 雨の情報と川の情報はどう繋がるのか考えてみましょう。

◆青葉区は鶴見川の中流域に位置します。上流で大雨の時、青葉区では川の水位はいつ変化するのでしょうか？ 昨年7月の台風12号では、青葉区で初めての「避難準備・高齢者等避難開始」が発令され、即時勧告対象区域(がけ地)の住人は指定された避難所へ移動しました。その後さらにガイドラインが見直され、警戒レベルを5段階表示とし、避難への呼びかけを分かりやすく、行動につながる表現になりました。大雨警報が出た時は、警戒レベル3に相当します。鶴見川上流で大雨警報が出れば、その下流の青葉区では準備体制に入る心構えが必要です。特に高齢者が家族にいる場合は、早めの避難準備が大切です。

防災気象情報をもとに取るべき行動と、相当する警戒レベル			
警戒レベル	情報		住民がとるべき行動
	雨の情報	川の情報	
警戒レベル5相当	大雨特別警報	氾濫発生	命を守って！
警戒レベル4相当	土砂災害警戒情報	氾濫危険	全員避難
警戒レベル3相当	大雨・洪水警報	氾濫警報	高齢者など避難
警戒レベル2相当	大雨・洪水注意報	氾濫注意	避難方法 確認
警戒レベル1相当	早期注意		最新情報に注意



横浜市避難情報

北部まちづくり交流会が開催されました！(3/16/2019)

横浜市北部4区(青葉区、都筑区、緑区、港北区)で活動しているまちづくり団体・組織が定期的にまちづくりについて意見交流を行っています。今回は緑区が世話人。緑区市民活動支援センターで交流会を開催しました。各区の取組発表のあと意見交換を行い、その後は懇親会でさらに連携を進めることができました。



◆各区の報告内容

- *青葉区「災害時の情報伝達」
- *都筑区「都筑のまちづくり くずれゆく港北ニュータウン」
- *港北区「ヨコハマ北部縦貫トラフィック」
- *緑区「災害時のトイレ対策」

青葉区の報告では、近年の都市型災害で特に大雨による土砂災害や洪水などを取り上げ、市民への警戒情報の出し遅れや情報の不理解による逃げ遅れなど課題を提示しました。さらに昨年初めて「避難準備・高齢者等避難開始」の発令が青葉区であり、即時勧告対象区域への対応の状況を紹介しました。区民は情報をどのようにすれば迅速正確に得ることができるのか、青葉区独自の取組を報告しました。



区民会議の広報活動 青葉区民まつり(11/3)に今年も参加します。

区民会議ニュース カラー版は青葉区民会議ホームページで！



昨年の区民まつり会場で